報告とお礼　　猛暑下の抗議闘争

9.15「老朽原発・高浜２号うごかすな！高浜現地緊急集会」（約 110 人参加）

岸田政権は「原発依存社会」に向かって暴走

岸田政権は、1 昨年 10 月に決定した「エネルギー基本計画」では「可能な限り原発依存度を低減させる」としながら、舌の根も乾かない昨年 8 月にこれをひるがえし、今年の 5 月には、通常国会で、数を頼んで、原発関連法を改悪しました。世界にも例のない原発 60 年超え運転への道、原発推進への道を開いたのです。また、8 月 24 日には、福島原発でたまり続ける放射能汚染水の太平洋への放出を開始しました。「関係者の理解なしには処分しない」とする約束を反故にし、福島県漁連、全国漁連をはじめ、世界の人々の反対の声を踏みにじった暴挙です。

このように、岸田政権は、約束違反であろうと、理不尽であろうと、法令違反であろうと、自分たちの利益になることのみを、民意を無視して実行する政権です。この政権にとって「民主主義」とは「民意を無視し、人の命と尊厳を蹂躙する」ことです。その政権が「原発依存社会」に向かって暴走しています。

関電が、全ての老朽原発を再稼働

岸田政権のお先棒を担ぐ関電は、運転開始後 46 年を超えた老朽原発・美浜 3 号機を一昨年稼働させ、去る 7 月 28 日、48 年超えで最古の原発・高浜 1 号機を、9 月 15 日、47 年超えの老朽原発・高浜 2 号機を再稼働させました。

老朽原発では、原子炉本体である圧力容器の脆化が進み、高温高圧の一次冷却水が流れる配管の損傷が進み、電源ケーブルの劣化が進んでいます。老朽原発には、建設時には適当とされたが、現在の基準では不適当と考えられる部分が多数ありますが、全てが見直され、改善されているとは言えません。例えば、地震の大きさを過小評価していた時代に作られ、交換不可能な、圧力容器などです。

老朽原発の運転は、過酷事故の危険性を急増させます。

老朽原発の稼働を進める関電は、トラブル、不祥事、約束違反を頻発させています。現在科学技術で 制御できない原発を、無理矢理稼働させようとするから、トラブル、不祥事が頻発し、人々を欺かなければならなくなるのです。

高浜原発前で、断固とした緊急抗議行動

9 月 15 日、関電の全老朽原発の再稼動を許してしまったことは、痛恨の極みです。

しかし、同日開催された「高浜 2 号機再稼働をゆるすな！高浜現地緊急集会」には、遠くは四国から、また、関西、福井からはマイクロバス、自家用車などで、7.28 高浜 1 号機再稼働抗議闘争を上回る 110 人が結集し、猛暑にも拘わらず、果敢に闘い、老朽原発再稼動への怒りと「簡単には老朽原発再稼働を許さない」意思を表明しました。

この日、13 時に高浜原発近くの音海展望所に結集した参加者は、原発北ゲート前までデモ行進し、ゲート前では、2 時間半にわたって、抗議と糾弾の声を関電にたたきつけました。

途中、関電に「老朽原発の稼働を断念し、廃炉に」「核燃料、化石燃料を使わない発電に切り替えよ」などを申し入れました。

残暑というより、酷暑の暑さの中で、何とも悔しく、やるせない思いの一方、「人類の手に負えず、子々孫々までの負の遺産・使用済み核燃料を残す原発は、必ず全廃させる！」の確信に満ちた参加者の怒りの行動でした。高浜 2 号機は、午後 3 時に稼働しました。

なお、この緊急行動は、NHK で放送され、多くの新聞でも報道されました（裏面参照）。

9.15 緊急集会に、ご支援、ご参加頂きました皆さん、ありがとうございました。

いま、**「放射能汚染水をながすな！」「使用済み核燃料の行き場はないぞ!」「老朽原発うごかすな！」は多くの人々の共感を得る課題です。この 3 つの課題を前面に押し立てて、岸田政権打倒、原発全廃の大きなうねりを出現させましょう! 起死回生の大闘争によって、「原発推進関連法」を空洞化し、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を実現しましょう！**

老朽原発うごかすな！実行委員会
（連絡先 090-1965-7102 木原）

関電への申し入れ

関西電力株式会社：取締役会長 榊原 定征 様、取締役社長 森 望 様、原子力事業本部長 水田　仁 様、高浜発電所長 木島 和夫 様

申し入れ書

原発は、現在科学技術で制御できる装置でないことを、発生後12年半を経た福島原発事故が大きな犠牲の上に教えています。その原発が老朽化すれば、危険度が急増することは多くが指摘するところです。

それでも、岸田政権の「原発依存社会への暴走」に迎合する貴関西電力（以後、関電と略）は、運転開始後46年を超えた老朽原発・美浜3号機を一昨年来稼働させ、7月28日には、48年超えで最古の原発・高浜1号機を再稼働させました。また、本日は、47年を超えた老朽原発・高浜2号機を再稼働させようとしています。地震、火山噴火、津波の多発する日本での、世界的にも老朽化が進んだ原発・高浜1、2号機、美浜3号機の運転は、無謀で、福島原発事故の犠牲と教訓を蹂躙するものです。

ところで、老朽原発の再稼働を進める関電は、別紙（注 1）に示したように、トラブルを続発させています。

トラブルの中でもとくに深刻なのは、高温・高圧水が流れる蒸気発生器伝熱管などの 1 次冷却系配管の損傷の頻発です。1 次冷却系配管が完全破断すれば、原子炉を冷やす機能が失われ、メルトダウンに至る可能性があるからです。

一方、高浜原発 1、2 号機では、ケーブル（電線管）の火災防護対策が不十分であることが明らかになりましたが、関電は抜本的な対策を施さず、ケーブルを耐火シートで覆う、周辺に可燃物を配置しないなどの応急措置のみで、再稼働を強行しています。ケーブルに適正な防護措置を講じるには何年もかかるからです。なお、ケーブルの火災防護対策の不備は、高浜 1、2 号機だけではありません。関電は、ケーブルの火災防護対策をしないまま高浜 3、4 号機、大飯 3、4 号機、美浜 3 号機を運転しています。安全軽視、原発稼働優先の姿勢です。

さらに、関電は、不祥事を繰り返しています。企業倫理に欠けた関電の経営体質には、目に余るものがあります。

関電の繰り返す約束違反も許されるものではありません、関電は、何度も「使用済み核燃料の中間貯蔵候補地を福井県外に探す」と約束しながら、それをことごとく反故にしています。関電は、福井県知事の原発再稼働への同意を取り付けるために、何の成算も無く「空約束」を繰り返してきたのです。2021 年 2 月にも、候補地提示期限を「2023 年末まで」と先送りし、「この期限が守られなければ老朽原発を停止する」としていますが、未だに候補地を見出すことはできていません。関電は、苦肉の策として、6 月 12 日、使用済み MOX 燃料の一部を、電気事業連合会が行う MOX 燃料再処理実証試験に供するために、フランスに持ち出す計画を明らかにし、「県外に搬出されるという意味で、中間貯蔵と同等の意義がある」としています。しかし、搬出量は、福井県内の原発で保管する使用済み核燃料のわずか 5%程度に過ぎず、搬出予定も今すぐでなく、2020 年代の後半です。

さらに、関電は中国電力と共同で、8月2日、中間貯蔵地建設のための調査を上関町に申し入れました。原発建設に反対し、美しい、希少な生態系を守る闘いを進める住民の心情を逆なでするものです。

「関電は、何の成算もなく空約束し、約束を反故にしても、その口を拭うために小手先の策を弄した詭弁でさらに人々を欺く企業」とのそしりは免れません。

現在科学技術で 制御できない原発を無理矢理稼働させようとするから、トラブルや不祥事が頻発し、人々を欺かなければならなくなるのです。

ところで、政府や関電は、使用済み核燃料は将来再処理するから、それまでの中間貯蔵地を探すとしていますが、再処理工場が稼働する見通しはありません。したがって、一旦中間貯蔵を引き受ければ、永久貯蔵を強いられることになります。

本来、使用済み核燃料の保管候補地となるのは、原発電気の消費地あるいは原発立地であってしかるべきです。しかし、原発電気の消費地である都市部を候補にすれば、原発反対運動が爆発するので、地域振興に窮している過疎地域に交付金をチラつかせて、使用済み核燃料を押し付けているのです。関電の原発電気を作ったことも、消費したこともない上関や青森に、子々孫々にまで負の遺産となる使用済み核燃料の中間貯蔵を押し付けることは犯罪です。

岸田政権や関電がいかに願望しようとも、いかに法律を変えようとも、政治的な判断や原子力ムラの都合で、科学・技術が急に進歩することはありません。原発の安全性や使用済み核燃料、放射性廃棄物の処理処分技術が急に向上することはありません。行き場のない使用済み核燃料を発生させる原発、トラブル続きで、過酷事故を起こしかねない原発は、一刻も早く全廃すべきです。

原発は、絶対に過酷事故を起こさないと言い切ることは誰にもできません。もし、過酷事故が起これば、立地自治体だけでなく、広域の周辺自治体の多くの住民が長期の避難を強いられることは、福島原発事故が実証しています。原発はあってはならない装置です。

今、電気は足りています。電力がひっ迫するのは、1 年のうちの数日です。それも 1 日の中の数時間です。このような一時的な電力ひっ迫は、節電によって乗り切れます。したがって、放射線被ばくを強い、子々孫々にまで負の遺産・使用済み核燃料を残す原発を稼働させる必要は全くありません。

そもそも、岸田政権や関電の「原発依存社会」への暴走は、福島原発事故以降の政権や電力会社が、事故の教訓を生かさず、原発維持にこだわり、自然エネルギーへの全面切り替えを怠った結末です。日本は、太陽光にも、水にも、風にも、地熱にも恵まれています。先見の

明がある政権や電力会社であったなら、原発に費やされた膨大な税金や電気料金を、自然エネルギーを利用する電源、大容量の蓄電法、省エネ機器の開発と普及に回し、今頃、核燃料、化石燃料など必要のない社会を実現し、世界をリードしていたでしょう。

以上の視点に立つ私たちは、貴関電も、ドイツ、イタリア、台湾と同様に一刻も早く原発と決別し、自然エネルギーの活用で世界をリードする電力会社へと脱皮されることを期待し、以下を申し入れます。

【1】 危険極まりない老朽原発・美浜３号機、高浜１号機の運転を中止し、老朽原発・高浜２号機の再稼働、高浜原発３、４号機の40年超え運転を断念し、これらの原発の即時廃炉を決定してください。

【2】 原発を動かせば、行き場がなく、子々孫々にまで負の遺産となる使用済み核燃料が増加します。貴関電の有する全ての原発を停止し、既存の使用済み核燃料の処理、処分、保管に関して真剣な議論を開始してください。

【3】 一刻も早く原発と決別し、核燃料、化石燃料を使わない発電に転換してください。公益事業体として、環境の保全と人類の明るい未来のために、自然エネルギーによる発電法、大容量蓄電法、省エネ技術などの開発と普及に努めてください。

なお、貴職らが、圧倒的な「老朽原発うごかすな！」の民意を蹂躙して老朽原発を稼働させ、重大事故が起こった場合、それは貴職らの故意による犯罪であり、許されるものではないことを申し添えます。

2023年９月15日

「老朽原発・高浜２号うごかすな！ 高浜緊急行動」参加者一同

NHK福井放送局 トップ　福井の深掘り記事　９月15日　８時39分

高浜原発２号機再稼働　経済効果に期待
再稼働中止申し入れ

高浜原発２号機が再稼働したことについて、地元の高浜町の業者からは、原発の点検作業などによって経済効果がもたらされることに期待する声が聞かれました。

町内でガソリンスタンドを経営している会社では、再稼働によって点検作業が増えることや、作業に関わる人が大勢、町を訪れることで、ガソリンなどの燃料の需要が増えると見込んでいます。

高浜町商工会の会長で、この会社の社長を務める田中康隆さんは「いろいろなコンプレッサーや発電機などが点検作業で使われているので、軽油などの燃料を配達することが多くなってくると思う。移動するのに車両も使うので燃料も必要になってくる。経済活動が活性化すればいいと思っている」と話していました。

高浜原発２号機の前では、再稼働に反対する市民団体がデモ行進を行うとともに、関西電力に再稼働の中止を申し入れました。

デモ行進は、原発の再稼働に反対する市民団体が行ったもので、主催者側の発表で、県内や京都府などから約１１０人が集まりました。

参加者たちは高浜原発の前で、再稼働に反対するのぼり旗を掲げて「老朽原発を動かすな」などと声を上げていました。そして、関西電力の担当者に、再稼働の中止や廃炉を求める申し入れ書を手渡していました。

市民団体の代表を務める京都市の木原壮林さんは「使用済み燃料の行き場はなく、過酷な事故が起きないという保証はない。事業者や国は自然エネルギーに転換するべきだ」と話していました。

「老朽機稼働反対」
周辺で100人デモ
市民団体など

運転開始から47年が経過した関西電力高浜原発2号機（福井県高浜町）が再稼働した15日、周辺では県内外から集まった市民団体のメンバーら約100人が「老朽原発再稼働反対」と声を上げながら抗議デモをした。

午後3時の原子炉起動前には、原発のゲート前で関電側に再稼働断念を求める申し入れ書を提出。「高浜2号機今すぐ止めろ」などとシュプレヒコールを繰り返した。申し入れ書を読み上げた京都市の橋田秀美さん（67）は「老朽化した原発を動かすことで、地元の人も怖い思いをしているはず」と話した。

デモに参加した高浜町の東山幸弘さん（76）は「運転開始直後にトラブルが起こるのが怖い」と不安を口にした。使用済み核燃料を一時保管するため、山口県上関町で中国電力と関電が検討している中間貯蔵施設建設計画については「電気を利用している関電の管内で保管するのが筋ではないか」と非難した。

関西電力高浜原発2号機の再稼働に反対し抗議デモをする市民団体のメンバーら＝15日午後、福井県高浜町

2023年９月16日京都新聞朝刊

市民団体がデモ行進
ゲート前で横断幕

市民団体「老朽原発うごかすな！実行委員会」は15日、関西電力高浜原発2号機（高浜町）の再稼働を受け、原発周辺で抗議活動を展開した。

県内外から110人が参加し、高浜原発を望む音海展望台からゲート前まで、300㍍をデモ行進した。参加者はゲート前で横断幕を掲げながら「老朽原発動かすな」「美浜原発、高浜原発は今すぐ止めろ」などとシュプレヒコールを上げた。

参加者の代表が高浜原発、美浜原発の即時廃炉や、自然エネルギー発電の開発などを求める申し入れ書を関電側に手渡した。実行委代表の木原壮林さんは「使用済み核燃料の行き場はない。再稼働で使用済み核燃料をこれ以上、増やしてはいけない」と訴えた。（本田英寛）

シュプレヒコールを上げる参加者＝高浜町の関西電力高浜原発前で

2023年９月16日
日刊県民福井朝刊
（中日新聞にも同様な記事）

高浜2号機
関　電「安全最優先で」
市民ら「全原発停止へ」
再稼働 歓迎と懸念と

関西電力原子力事業本部に設置されたプレスセンターでは、高浜原発2号機の原子炉を起動する様子がモニターに映し出された＝美浜町

運転開始から47年を超える関西電力の高浜原発2号機は15日、約12年ぶりに再稼働した。稼働から40年超の関電の老朽原発3基がすべて再稼働となったが、古い原発の安全性への懸念などから運転の停止を求める声もあがった。

関電によると、高浜1、2号機の中央制御室では運転員やメーカー社員ら計24人が作業に従事し、県や高浜町の担当者ら5人も現場に立ち会った。

関電原子力事業本部（美浜町）にはプレスセンターが設置され、中央制御室での作業の様子を中継した。午後3時、運転員が制御棒を操作する液晶画面に触れて原子炉を起動させると「2号原子炉起動しました」と放送が流れた。

2号機の再稼働で、廃炉作業中をのぞく関電の全7基が稼働可能な体制になった。2011年7月以来のことで、来年4月に7基の同時運転となる時期が来る見通しだ。

関電は「安全最優先で緊張感を持って作業を進める」としている。一方、杉本達治知事も談話を発表し、関電に「これまで以上に慎重かつ安全な運転に努め、原子力に対する県民の信頼を得ていかなければならない」と求めた。

2号機がある高浜町の野瀬豊町長も報道陣の取材に応じた。「町民にとっても基幹産業が再開され、安堵感があるのではないか」と歓迎した。ただ、使用済み核燃料が増え続けている問題は待ったなしで、「事業者を中心に様々な可能性を探ってほしい」と注文した。

一方、高浜原発近くでは、再稼働に反対する市民団体約110人によるデモ行進も行われ、関電側には原発の運転停止を求める申入書を手渡した。市民団体代表の木原壮林さん（80）は、「運転の危険性がとても高い老朽原発の廃炉を突破口に、すべての原発の停止にもっていきたい」と話した。

高浜2号機は今年7月中旬に再稼働の予定だったが、原子力規制委員会から施設の火災防護に不備があると指摘され、追加対策を実施。当初の予定より約2カ月遅れて再稼働した。

（佐藤蓉敬、小田健司）

中間貯蔵計画半ば 迫る「約束」

県内では稼働から40年を超える老朽原発3基（高浜1・2号機、美浜3号機）がすべて稼働した。しかし、関西電力が3基を稼働させ続けられるかどうかはまだ見通せない。

関電は2021年、この3基の再稼働の是非をめぐる議論の中で、23年末までに県内の原発から出る使用済み核燃料を搬出する中間貯蔵施設の計画地点を示せなければ、3基の運転を止めると約束したからだ。

関電の動向が注目される中、今年6月に森望社長が県庁を訪れ、電気事業連合会がフランスで行う研究で、高浜原発の使用済み核燃料200㌧を搬出する計画を説明した。そのうえで、杉本知事に「計画地点の確定と同等の意義がある。福井県との約束はひとまず果たされた」と一方的に主張した。

言葉通りの「約束」は果たされていないはずだが、杉本知事は関電の姿勢に態度を表明していない。ある県議は知事の気持ちをこう推察する。「中途半端な回答だが、知事も原発を止めたいわけではないだろうから、とりあえずボールを投げてくれてありがたかったのではないか」

そうした中での8月、関電がかかわる中間貯蔵施設の建設計画が山口県上関町で浮上した。中国電力が関電と共同開発する施設で、町は調査の受け入れを決めた。

実現すれば福井県から搬出される可能性があるが、杉本知事は「推移を見守る」と目立った反応を示していない。県幹部は「関心があるのは確かだが、それ以上は何も言う立場にない」と説明する。

約束の期限まで3カ月半。注目されるのは、知事が「総合的な判断」をすると繰り返していることだ。何らかの条件が整えば関電の言い分をのんで、計画地点を示さなくても3基が止まらない可能性もあるかもしれない。

（小田健司）

2023年９月16日朝日新聞朝刊

「核のゴミ増やすな」
反対派住民 抗議のデモ行進
高浜2号機再稼働

関西電力高浜原発2号機（福井県高浜町、82・6万キロワット）が15日、約12年ぶりに再稼働した。ただ、運転開始から47年超の原発の再稼働ゆえに、事故の危険性の高まりを懸念する声は多い。関電が県に年内に示すと約束している使用済み核燃料を一時保管する「中間貯蔵施設」の県外候補地についても結論は出ておらず、同原発周辺では、県内や関西地域の反対派住民が再稼働に抗議する姿が見られた。【高橋隆輔、国本ようこ】

「老朽原発きわめて危険」「これ以上核のゴミを増やすな」――。福井や滋賀、京都、大阪各府県などを拠点に活動する団体でつくる「老朽原発うごかすな！実行委」が主催した抗議集会には、約110人が参加。一行はシュプレヒコールを上げながらデモ行進した後、関電担当者に2号機の再稼働停止や3、4号機の40年超運転断念などを求める申し入れ書を提出した。

実行委事務局の木原壮林・京都工芸繊維大名誉教授（80）は、毎日新聞の取材に、「行き場のない使用済み核燃料をこれ以上増やしてはいけない。1基動かせばそれだけ使用済み核燃料の発生量が増え、事故の危険性も増す」と訴えた。福井県小浜市、明通寺の中嶌哲演住職（81）は、福島第1原発事故後止まっていた県内原発が全て再稼働したことを受け「福島事故は原発推進派にとって何の意味も持たなかったのか。言葉もない。事故後に高まった原発反対の世論も、なぜこんなに早く静まっているのかと話し、反対運動で世論喚起する必要性を強調した。

一方、福井県の杉本達治知事は「事業者はこれまで以上に慎重かつ安全な運転に努め、県民の信頼を得ていかなければならない。県としても運転について引き続き厳格に監視していく」とのコメントを発表。立地する高浜町の野瀬豊町長は、記者団の取材に「3・11以前のサイクルに戻ることで町内の事業者や町民にも一定の安心感はあるだろう」と歓迎した。

今回の高浜2号機の再稼働で、関電が保有する運転可能な原発7基全てが動くことになった。一方で、使用済み核燃料はたまり続けている。関電の原発内での保管用量は約5～7年以内に上限に達する見通し。関電は6月、県に使用済み核燃料の海外搬出計画を示し、さらに中国電力と共同で山口県上関町に使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設に向けた調査をする方針だが、先行きは不透明なままだ。

ある県議は「中間貯蔵施設の問題が解決していない中での再稼働には疑問を感じる」と話した。

志望校選びのポータルサイト
中学受験.JP
中学受験JP　検索

関西電力に申し入れ書を提出する「老朽原発うごかすな！」事務局の木原壮林さん（右端）。中央奥は関西電力高浜原発2号機＝福井県高浜町で

2023年
9月16日
毎日新聞
朝刊